



CLI の使用方法

Catalyst 3750-E および 3560-E スイッチは、Cisco IOS ソフトウェアでサポートされています。ここでは、ソフトウェア機能を設定するためのスイッチ CLI（コマンドラインインターフェイス）の使用方法について説明します。

これらの機能をサポートするコマンドの詳細な説明については、[第 2 章「Catalyst 3750-E/3560-E スイッチ Cisco IOS コマンド」](#)を参照してください。ブート ロード コマンドの詳細については、[付録 A「Catalyst 3750-E および 3560-E スイッチ ブート ロード コマンド」](#)を参照してください。`debug` コマンドの詳細については、[付録 B「Catalyst 3750-E および 3560-E スイッチ デバッグ コマンド」](#)を参照してください。`show platform` コマンドの詳細については、[付録 C「Catalyst 3750-E および 3560-E show platform コマンド」](#)を参照してください。Cisco IOS Release 12.2 の詳細については、『*Cisco IOS Release 12.2 Command Summary*』を参照してください。

タスク別の構成手順については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

このマニュアルでは、明示的に IP バージョン 6 (IPv6) を指す場合を除き、IP とは IP バージョン 4 (IPv4) のことを指します。

スイッチへのアクセス

スイッチ スタックおよびスタック メンバー インターフェイスの管理は、スタック マスター (Catalyst 3750-E スイッチなど) を介して行います。スイッチごとにスタック メンバーを管理することはできません。スタック マスターに対して複数の CLI セッションを使用する場合は注意が必要です。1つのセッションで入力したコマンドは、別のセッションには表示されません。したがって、コマンドを入力したセッションを追跡できない場合があります。



(注)

スイッチ スタックを管理する場合は、1つの CLI セッションを使用することを推奨します。

特定のスタック メンバー ポートを設定する場合は、CLI コマンド インターフェイス表記にスタック メンバー番号を含めてください。インターフェイス表記の詳細情報については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドの「Configuring Interfaces」を参照してください。

特定のスタック メンバーをデバッグする場合は、**session stack-member-number** 特権 EXEC コマンドでスタック マスターからアクセスできます。スタック メンバー番号は、システム プロンプトに追加されます。たとえば、switch-2# はスタック メンバー 2 の特権 EXEC モードのプロンプトであり、スタック マスターのシステム プロンプトは switch です。特定のスタック メンバーへの CLI セッションで使用できるのは、**show** コマンドと **debug** コマンドに限ります。

CLI コマンドモード

ここでは、CLI コマンドモードの構造について説明します。コマンドモードは、特定の Cisco IOS コマンドをサポートします。たとえば、**interface interface-id** コマンドは、グローバル コンフィギュレーション モードで入力されたときだけ機能します。

以下は、スイッチの主なコマンドモードです。

- ユーザ EXEC
- 特権 EXEC
- グローバル コンフィギュレーション
- インターフェイス コンフィギュレーション
- config-vlan
- VLAN コンフィギュレーション
- ライン コンフィギュレーション

表 1-1 に、主なコマンドモード、各モードへのアクセス方法、各モードで表示されるプロンプト、およびモードの終了方法を示します。表示されているプロンプトは、デフォルト名として *Switch* を使用しています。

表 1-1 コマンドモードの概要

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了または次のモードのアクセス
ユーザ EXEC	これが最初のアクセス レベルです。 (スイッチについては) 端末設定を変更し、基本タスクを実行し、システム情報を一覧表示します。	Switch>	logout コマンドを入力します。 特権 EXEC モードを開始するには、 enable コマンドを入力します。
特権 EXEC	ユーザ EXEC モードから、 enable コマンドを入力します。	Switch#	ユーザ EXEC モードに戻る場合は、 disable コマンドを入力します。 グローバル コンフィギュレーション モードを開始するには、 configure コマンドを入力します。
グローバル コンフィギュレーション	特権 EXEC モードから、 configure コマンドを入力します。	Switch(config)#	特権 EXEC モードに戻る場合は、 exit または end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。 インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、 interface コンフィギュレーション コマンドを入力します。
インターフェイス コンフィギュレーション	グローバル コンフィギュレーション モードで、 interface コマンドに続けてインターフェイス ID を入力し、インターフェイスを指定します。	Switch(config-if)#	特権 EXEC モードに戻る場合は、 end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。 グローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。

表 1-1 コマンドモードの概要 (続き)

コマンドモード	アクセス方法	プロンプト	終了または次のモードのアクセス
config-vlan	グローバル コンフィギュレーション モードから、 vlan vlan-id コマンドを入力します。	Switch(config-vlan)#	グローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。 特権 EXEC モードに戻る場合は、 end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。
VLAN コンフィギュレーション	特権 EXEC モードから、 vlan database コマンドを入力します。	Switch(vlan)#	特権 EXEC モードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。
ライン コンフィギュレーション	グローバル コンフィギュレーション モードから、 line コマンドを入力することにより、ラインを指定します。	Switch(config-line)#	グローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、 exit コマンドを入力します。 特権 EXEC モードに戻る場合は、 end コマンドを入力するか、 Ctrl-Z を押します。

ユーザ EXEC モード

装置にアクセスすると、自動的にユーザ EXEC コマンドモードに入ります。ユーザ レベルで使用可能な EXEC コマンドは、特権レベルで使用可能な EXEC コマンドのサブセットです。一般に、ユーザ EXEC コマンドは、端末設定の一時的変更、基本テストの実行、システム情報の一覧表示などに使用します。

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch> ?
```

特権 EXEC モード

特権コマンドの多くは動作パラメータの設定に関係しているため、無許可の使用を防ぐため、特権コマンドへのアクセスはパスワードで保護する必要があります。特権コマンドセットには、ユーザ EXEC モードのコマンドと、それ以外のコマンドモードにアクセスするための **configure** 特権 EXEC コマンドが含まれます。

システム管理者がパスワードを設定した場合、特権 EXEC モードへのアクセスが許可される前に、パスワードの入力を要求するプロンプトが表示されます。パスワードは画面には表示されません。また大文字と小文字が区別されます。

特権 EXEC モードのプロンプトは、装置名のあとにポンド記号 (#) が付きます。

```
Switch#
```

特権 EXEC モードにアクセスするには、**enable** コマンドを入力します。

```
Switch> enable
Switch#
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch# ?
```

ユーザ EXEC モードに戻る場合は、**disable** 特権 EXEC コマンドを入力します。

グローバル コンフィギュレーション モード

グローバル コンフィギュレーション モードは、装置全体に作用する機能に適用されます。グローバル コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure** 特権 EXEC コマンドを使用します。デフォルトでは、管理コンソールからコマンドを入力します。

configure コマンドを入力すると、コンフィギュレーション コマンドの送信元の入力を要求するメッセージが表示されます。

```
Switch# configure  
Configuring from terminal, memory, or network [terminal]?
```

コンフィギュレーション コマンドの送信元として、端末または NVRAM (不揮発性 RAM) のいずれかを指定することができます。

次の例では、グローバル コンフィギュレーション モードにアクセスする方法を示します。

```
Switch# configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config)# ?
```

グローバル コンフィギュレーション コマンド モードを終了して特権 EXEC モードに戻る場合は、**end** コマンドまたは **exit** コマンドを入力するか、または **Ctrl-Z** を押します。

インターフェイス コンフィギュレーション モード

インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、インターフェイスの動作を変更します。インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは常に、インターフェイス タイプを定義するグローバル コンフィギュレーション コマンドのあとに続きます。

インターフェイス コンフィギュレーション モードにアクセスするには、**interface interface-id** コマンドを使用します。新しいプロンプトはインターフェイス コンフィギュレーション モードを示しています。

```
Switch(config-if)#
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config-if)# ?
```

インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了してグローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、**exit** コマンドを入力します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了して特権 EXEC モードに戻る場合は、**end** コマンドを入力するか、**Ctrl-Z** を押します。

config-vlan モード

標準範囲 VLAN (VLAN ID 1 ~ 1005) を設定したり、VTP モードが透過型で拡張範囲 VLAN (VLAN ID 1006 ~ 4094) を設定したりする場合は、このモードを使用します。VTP モードが透過型である場合は、VLAN および VTP 設定は実行コンフィギュレーション ファイルに保存されるので、**copy running-config startup-config** 特権 EXEC コマンドを実行して、この設定をスイッチのスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存できます。VTP が透過モードまたはサーバモードの場合、VLAN ID が 1 ~ 1005 の VLAN 設定は、VLAN データベースに保存されます。拡張範囲 VLAN 設定は、VLAN データベースには保存されません。

config-vlan モードを開始するには、**vlan vlan-id** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

```
Switch(config)# vlan 2000  
Switch(config-vlan)#
```

サポートされるキーワードはさまざまですが、VLAN コンフィギュレーション モードで利用できるコマンドと似ています。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config-vlan)# ?
```

拡張範囲 VLAN については、MTU サイズ以外のすべての特性はデフォルト設定のままにしておいてください。

グローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、**exit** を入力します。特権 EXEC モードに戻る場合は、**end** を入力します。**shutdown** 以外のすべてのコマンドは、config-vlan モードを終了したときに有効になります。

VLAN コンフィギュレーション モード

VLAN コンフィギュレーション コマンドを使用して、VLAN ID 1 ~ 1005 に対応する VLAN パラメータを作成または変更できます。

vlan database 特権 EXEC コマンドは、VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。

```
Switch# vlan database  
Switch(vlan)#
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(vlan)# ?
```

特権 EXEC モードに戻る場合は、**abort** VLAN コンフィギュレーション コマンドを入力して、設定予定だったデータベースを放棄します。または、**exit** を入力して、設定対象の新しい VLAN データベースを実装し、特権 EXEC モードに戻ります。**exit** または **apply** を入力すると、設定が VLAN データベースに保存されます。VLAN コンフィギュレーション モードで、設定をスイッチ コンフィギュレーション ファイルに保存することはできません。

ライン コンフィギュレーション モード

ライン コンフィギュレーション コマンドは、端末ラインの動作を変更します。ライン コンフィギュレーション コマンドは、常にライン番号を定義するライン コマンドのあとに続きます。端末パラメータ設定をラインごとに、または特定の範囲のライン全体で変更するには、このコマンドを使用します。

ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty line_number [ending_line_number]** コマンドを使用します。次の新しいプロンプトはライン コンフィギュレーション モードを示しています。次の例では、仮想端末ライン7でライン コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
Switch(config)# line vty 0 7
```

サポートされているコマンドは、ご使用のソフトウェアのバージョンによって異なります。コマンドの包括的なリストを表示するには、プロンプトで疑問符 (?) を入力します。

```
Switch(config-line)# ?
```

ライン コンフィギュレーション モードを終了してグローバル コンフィギュレーション モードに戻る場合は、**exit** コマンドを使用します。ライン コンフィギュレーション モードを終了して特権 EXEC モードに戻る場合は、**end** コマンドを入力するか、**Ctrl-Z** を押します。

